

令和7年度 学校評価シート

青梅市立泉中学校

<学校経営方針の重点>

1 学習意欲の向上

2 心の教育の充実

3 安全・安心な学校

4 組織運営と人材育成

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄	
							評価	コメント
学習意欲の向上	生涯にわたり、主体的に学び続ける生徒の育成	「聴く」ことを重視し、学び合う授業を実践する。	単元を通して習得⇔探究⇔発信の流れのある授業を必ず行う。本時のねらいを明確にし、協同で探究し粘り強く考える機会を増やす。	A	83.1% 単元を通して習得⇔探究⇔発信の流れを意識して必ず授業を組み立てることができてきている。	授業観察やお互いの授業を見合うことで、泉中授業スタンダードを継続させていきたい。	A	90.0% 今日の単元の「めあて」（目標）は何なのか、はっきり示されていない授業がある。まさに本日等のねらいを明確にする。
			四人組やペアで課題解決に向けて話し合う場面を設け、生徒の疑問や考えをつなぐことで理解を深めさせるとともに、聴き合う関係性を醸成し、誰一人孤立させない。	A	83.8% 生徒アンケートからも協同学習をしていると実感している結果が分かる（肯定意見 95.8%）。	考え方や理由を探究したり、生徒の疑問を引き出し生徒の考えをつないだりして、教師が深める見本を示し慣れさせる。	A	87.1% ペア学習や四人組によるディスカッションなどの試みが、授業などの限定した領域を越えて生徒同士の共通理解に良い結果をもたらしていることに気づかされ、よい兆候だと思った。
			授業中や自宅においてタブレットをはじめ ICT を効果的に活用した学習を推進する。	A	80% 生徒アンケートのからも ICT 機器を活用していると実感している結果が分かる（肯定意見 94.9%）。	学習効果を上げるためには、ICT だけに頼らず、デジタルとアナログを上手に活用する。	A	87.1% タブレットを利用した学びは有益であるが、自分の頭で深く考えることをせず、得られた知見に安易に頼ってしまうことはないか。
心の教育の充実	自他を尊重し、主体的に社会に貢献する生徒の育成	「聴く」ことを重視し、互いに認め合う心を育む。	常に傾聴・共感を心がけ、複数の教員で生徒や保護者の対応に当たる。	A	88.5% 学校経営の柱である傾聴を核とした指導ができています。	人権意識を高め、今後も現在の寄り添う指導を継続する。	A	90.0% 先生方の頑張りは素晴らしい。その上昇志向に子ども達がついていっているか心配です。
			生徒会活動などの自治活動や校内外のボランティア活動を活性化させ、自己有用感高揚につなげる。	A	81.2% 生徒が活躍する場を意図的に作り、自己有用感の醸成の促進が図れた。	職員一人一人の自己有用感高揚に対する意識をさらに高め、組織的に動く必要がある。	A	90.0% 域の活動に積極的に参加していて素晴らしい。学校側も生徒が参加しやすいよう掲示などを工夫されている。
			教室環境整備や授業展開の工夫をしながら、組織的に特別支援教育に取り組む。	A	83.5% ユニバーサルデザインを意識した環境整備は浸透してきている。	生徒支援のチェック体制組織を明確に位置付ける。	A	90.0% 認め合い尊重し共存する環境作りはとても大事。皆違ってよいことを話あってください。
安全・安心な学校	安全・安心な学校生活の実現（いじめ、不登校の未然防止）	生徒の心に寄り添い、個に応じた指導の充実を図る。	授業中に探究や意見交流の場面を設け、聴き合うことの重要性を説き、生徒間に互いに認め合う関係性を育み、居場所感を醸成する。	A	87.7% 心理的安全性が高まってきている。探究や自ら尋ね疑問を解消する意見交流としたい。	聴き合うことの重要性を理解させ探究や疑問解消の場面を多く設けるようにする。	A	90.0% ペアや四人組による学びの展開が互いに認め合う信頼関係の醸成と不可分であり、優れた取り組みの成果だとみなしたい。
			アンケートや個別面談等、相談体制の充実を図り、不登校やいじめ防止を念頭に生徒理解に努め、問題には組織的に対応する。	A	85.8% 生徒支援の要である。生徒ファーストの意識が高め、生徒に寄り添った指導ができてきている。	生徒理解に努め、生徒同士の温かく柔らかな関係性を育む。不登校対応を充実させる。	A	87.1% 学校と家庭とのコミュニケーションや学校公開などで会話の場を増やして欲しい。
			セーフティ教室や避難訓練・安全指導を通じ、自ら危険を予測し回避する力を育てる。防災教育を推進し、生徒の意識向上を図る。	A	84.2% 計画的に安全指導ができた。特に避難訓練は朝礼時や昼休み実施等、発展させることができた。	いざという時を想定した避難訓練や安全指導を今後も充実させ、意識向上を図る。	A	90.0% 防災教育推進にあたり、地域の高齢者も参加できるような防災訓練ができないか検討してほしい。
組織運営・人材育成	教職員が互いに学び合い高め合う中で、指導力向上を目指す組織の確立	校内研究を通じて、授業改善・生徒支援力・働き方改革の推進を目指す。	全ての教員が「聴き合う」ことを重視し、協同と探究のある授業を実践するとともに、ICT 活用力の向上を目指す。	A	86.2% ICT を効果的に活用し、単元の中に習得⇔探究⇔発信を意識した授業が展開できた。	各自が実践する機会を増やし、疑問を共有することによってさらに深めていく。	A	90.0% 授業についていけない生徒に少しでも興味を持てるよう双方のコミュニケーションが大事なので、「聴きあう」ことを継続して欲しい。
			互いに授業を参観し合い、参観と其後の協議を行う機会を増やし、教科の垣根を越えて指導力の向上を図る。	B	79.2% 校内研修の機会を使って互いに授業を見合っている。自主的に授業参観を増やせるとよい。	校内だけでなく市内外を問わず、積極的に授業参観に出かける風土を作る。	A	84.3% 教職員が互いに授業を参観し合うことは素晴らしく、教育者としてのプロ意識の向上にもなる。楽しく学ぶ環境が整っていくと良い。
			年5回外部講師を招聘して校内研修を行い、授業改善および生徒支援力の向上を目指す。同時に働き方改革をさらに推進する。	A	84.2% 学力向上・生徒支援・働き方改革について研究を推進してきた結果、成果が数字で表れてきた。	来年度の学校経営の柱に、研究の継続を置き、「へこたれない力」を育てていきたい。	A	90.0% 専門的な知見が必要な場合、その方面のプロの力を借りることを怠ってはならないと思う。生徒、教職員の学びや気づき等の向上に繋がる。

※達成度合 A : 80%~100% B : 60%~80% C : 40%~60% D : 40%以下